人形芝居めい遊「ようこそ まっていたよ」

めい遊さん、10 周年おめでとうございます。一口に 10 年といってもその間にはさぞかしいろんな出来事があった事と思います。これまでにどれだけの作品を創ってこられたかは判らないのですが、思うように上がらない時の苦しみや苛立ち、快心作に仕上がった時のこの上ない喜びや充実感等々。本当にお疲れさまでした。でもこれからですよ。20 年、30 年に向かって頑張ってください。

さて、今回はその 10 年を記念してのオリジナルという事でした。

さすがめい遊さんらしく人形、装置、小道具などには細心の心配りがされ木々の色の写り変わり、作物の色、あひるやワンちゃんたちの細かい動きなどは見ていても美しく楽しいものでした。そして最後の赤ちゃん誕生の場面、泣き声かなんかしてすぐ親子が登場するのかなと思いきや、なんのなんのあっというまの場面転換で命の誕生の感動を分けてもらう事ができて大変幸せなひとときでした。4 人のお孫さんをもつおばぁちゃんの実体験なのでしょうね。

オリジナルといっても演者の実生活、実感から生まれたお話ですので、台本がどうのこうのという事ではないのですが一つだけ気にかかった点がありました。それは娘さんの登場のさせかたです。今の出方だと唐突で「えっなに」って思い、すぐに「あーそうかー」と最後がわかってしまいます。短いお話ですから判ってもいいのですが、手段として人物を登場させるのではなく、そこになんらかの必然性をもって描く事が必要なのだと改めて思った次第でした。

めい遊さんのひとり芝居これからも期待しています。

田山桂子（人形劇団京芸）